

大栗小梅(おおぐりこうめ)

登録番号：第948号

育成者：大栗重寿

登録年月日：昭和61年6月18日

来歴：「竜峡小梅」の枝変り

登録者：大栗重寿(長野県下伊那郡
松川町生田4789)

特 性

■栽培特性

「竜峡小梅」の枝変りで、樹姿はやや直立性を示し「竜峡小梅」と似る。樹勢は中で枝梢の伸長は旺盛で細く密生する。一年枝の色は緑色を呈し「竜峡小梅」と同様に充実する。花芽の着生は多く、性状は単一複芽である。雌ずいの開張性は中位、花糸の色は白色、やくは黄色、花弁は一重で白色である。がく筒内壁は橙黄緑色で、がく片は赤かっ色、大きさは中位である。花粉粘性高く、花粉量多く自家和合性30%以上と高く結実良好である。隔年結果性は少なく豊産性である。

開花期は早い方で、育成地(長野県下伊那郡松川町)での開花始めは平年3月10日で、落花期が4月5日と約1カ月間にわたって開花する。

■果実特性

果形は円から短楕円形であり、果頂部の形は平である。縫合線は浅く明瞭である。果実の大きさは平均4～5gで「竜峡小梅」の3～4gに比べやや大きく区別できる。片肉果は少なく、玉摘み良好で豊産性である。果皮の地色は緑であるが陽光面がかすかに淡紅色になる。果肉は厚く果肉歩合88%以上と高く、肉質は密で繊維少なく品質優れる。酸味は多いが、渋味は少なく、苦味はわずかに感ずる程度である。核の形は短楕円形であり核の大きさは極小である。収穫期は青果カリカリ漬け用の場合5月下旬から6月上旬であり「竜峡小梅」よりやや早い。干梅用として利用する場合は6月中旬から下旬と約20日程遅らせることにより果実の大きさは10g前後に大きくなる。

早近、小梅の干梅加工が検討されており「竜峡小梅」より大きくなる本品種の利用が有望である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

黒星病にはやや強いが突葉病にはやや弱い。浅根性であるため干ばつや滞水に弱いので、灌水施設の設置や排水対策を十分行う。標準窒素施用量は窒素成分として16～20kg/10aとする。窒素量が多くなれば軟弱徒長、過繁茂となり胴枯病の発生が多くなる。排水の良い肥よくな土壌では良好な生育を示し収量も安定して多く品質良好な生産が可能である。完熟した有機物を毎年施すとともに土壤診断を行い、適正土壤反応pH6.5くらいの微酸性を保つように心がける。収穫後は、枝梢の伸長が旺盛になるため枝の誘引、夏季剪定を行い樹冠内部まで太陽光線を入れ花芽の充実と樹体養分の蓄積に努める。本品種は花粉量も多く自家和合性が高いが、さらに結実を安定させたい場合には開花が同時期で花粉の多い「花香実」などを1～2割混植する。

■地域適応性

園地は排水の良い土層の深い壤土ないし砂壤土が適する。春先の気温変化の著しい場所や凍害、霜害のない場所が適する。また、朝日が当たる場所より夕日の当たる場所が良い。標高800m以上では凍害による胴枯病の発生が多くなるので高標高地での栽植は避ける。

(牧田 弘)